

2019年漁期 まあじ漁獲可能量(TAC)案について

(単位:万トン)

魚種	系群	資源状態		ABC ^(注)				TAC				備考
		水準	動向	2016年	2017年	2018年	2019年	2016年	2017年	2018年	2019年(案)	
まあじ	<p>【中期的管理方針】 太平洋系群については、資源が減少傾向にあることから、減少に歯止めをかけることを基本方向として、管理を行うものとする。 対馬暖流系群については、大韓民国及び中華人民共和国等と我が国の水域にまたがって分布し、大韓民国及び中華人民共和国等においても採捕が行われていることから、関係国との協調した管理に向けて取り組みつつ、資源を維持若しくは増大することを基本に、我が国水域への来遊量の年変動にも配慮しながら、管理を行うものとし、資源管理計画に基づく取組の推進を図るものとする。</p> <p>【2019年TAC設定の考え方】 以下の考えに基づき算定された系群のABCの合計値と同数をTACとする。 (まあじ太平洋系群) 「親魚量の増大」シナリオで算定したABCのLimit(0.71万トン) (まあじ対馬暖流系群) 「親魚量の維持」シナリオで算定したABCのLimitのうち日本EEZ内分(20.6万トン)</p>											
	太平洋	中位	減少	2.48	1.25	0.92	0.71					
	対馬暖流	中位	増加	22.1 (20.3)	20.8 (18.5)	23.1 (20.8)	23.1 (20.6)					
合計			24.58 (22.78)	22.05 (19.75)	24.02 (21.72)	23.81 (21.31)	22.78	19.75	21.72	21.31		

注)下段括弧内は、日本EEZの値。

【資源評価結果】

(単位:万トン)

	資源の状態		親魚量の状態	漁獲シナリオ ^(注) (管理基準)	ABC (2019年)		参 考		
	水準	動向			親魚量 (2017年)	Blimit (親魚量)			
太平洋系群	中位	減少	>Blimit	①親魚量の増大 (F40%SPR)	Target	0.48	2.4	2.4	
					Limit	0.58			
					Target	0.59			
					Limit	0.71			
対馬暖流系群	中位	増加	>Blimit	①現状の漁獲圧の維持 (Fcurrent)	Target	13.5	30.1	15	
					Limit	16.2			
					②資源量の増大 (F30%SPR)	Target			13.9
						Limit			16.6
						Target			19.8
						Limit			23.1

注)中期的管理方針に合致するシナリオを記載。

平成 30 年 10 月
水 産 庁

2019 年漁期 TAC の配分について（まあじ）

1. 配分の考え方

- (1) TAC の 2 割を留保枠とし、当初配分は 8 割とする。
- (2) 過去 3 ヶ年（平成 26 年～平成 28 年）の漁獲実績に基づき、大中型まき網漁業及び都道府県へ配分する^{*}。
- (3) 来遊状況に応じ不足が生じた場合には留保枠から配分する。ただし、再評価前に全ての留保枠を放出することはしない（少なくとも留保枠の 2 割程度は残す）。
なお、資源量が少ない系群（太平洋系群）を漁獲している都道府県への配分量の総計は、留保枠に占める当該系群相当量（1,500 トン）以内とする。この場合においても、再評価前は少なくとも 2 割程度残す。

2. その他

都道府県の数量と大中型まき網漁業の数量との移譲について協議が調った場合又は都道府県間で数量の移譲について協議が調った場合には、農林水産大臣はその内容を公表するものとし、基本計画に定める数量は、当該移譲を反映した数量とするとの枠組は継続する。

^{*}漁獲可能量（TAC）の配分シェア見直しについて（第 84 回水産政策審議会資源管理分科会資料 5）